高崎市文化財調査報告書　第321集

正観寺八木境遺跡

— 事務所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

2014

高崎市農業共同組合
高崎市教育委員会
有限会社 高澤考古学研究所

例　言

1　本書は、群馬県高崎市正観寺町字八木境654番地に所在する「正観寺八木境遺跡」（高崎市遺跡調査番号565）の発掘調査報告書である。
2　調査は、事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
3　発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、高崎市農業共問組合の費用負担によって行われた。
4　発掘調査及び整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
5　調査体制は、以下の通りである。
　高崎市教育委員会文化財保護課　田口 一郎・神澤 久幸・清水 豊
　有限会社 高澤考古学研究所　澤田 福宏
6　発掘調査は、平成25年6月3日から平成25年7月8日までの期間で実施した。調査面積は180㎡である。
7　本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田 福宏が行った。執筆は1を高崎市教育委員会文化財保護課が、それ以外を澤田が行った。
8　基準・水準点測量及び遺構・遺物平面図測量はタナカ設計に委託した。
9　空中撮影は加藤空撮に委託した。
10　遺構及び遺物撮影は、澤田が行った。
11　発掘調査及び整理作業に従事した者は、以下の通りである。（敬称略、50音順）
　秋山 文男・兼田 賢章・小林 貴子・澤田 美枝子・澤田 恵美・佳谷 次男・関根 折夫・日田 利江・蓬田 保伯・渡 明秀
12　発掘調査から報告書刊行に至るまでに、下記の機関に協力を賜った。（敬称略、50音順）
　高崎市農業共同組合　山下工業株式会社
13　発掘調査により得られた資料及び出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡　例

1　遺構挿図中に使用した方位記号は座標北を、水準線は標高を示す。座標は国家座標Ⅸ系を使用した。
2　土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
3　本書で使用した地図は、第1図が国土地理院発行数値地図1/25,000地形図を、第2図は国土地理院発行数値地図1/2,500（高崎市都市計画基本図）を使用した。
4　遺構掲載図の縮尺は、各図に示した通りである。
5　遺物実測図の縮尺は、遺物No.横の（　）内及びキャプション中に示した通りである。
6　復元実測を行った遺物に関しては中心線と口縁部線を2mm分あけて表現した。
7　遺物実測図の断面表現にて、土師器は白抜き・須恵器は黒塗り・灰釉陶器は小ドット塗りとした。
8　本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。
　As-BP …… 約2万年前降下「浅間板鼻褐色軽石群」
　As-YP …… 約1万3千年前降下「浅間板鼻黄色軽石」
　As-C …… 3世紀後半降下「浅間C軽石」
　Hr-FA …… 6世紀初頭降下「榛名二ツ岳火山灰」
　As-B …… 1108年（天仁元年）降下「浅間B軽石」
　As-A …… 1783年（天明3年）降下「浅間A軽石」

目次

例言・凡例・目次
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　調査の方法と経過……1
Ⅲ　遺跡の地理的環境と周辺遺跡……2
Ⅳ　基本堆積土層……4
Ⅴ　調査の成果……7
Ⅵ　総括　……20
写真図版
参考文献・抄録

挿図・表目次

第1図　周辺遺跡図（1/25,000）……3
第2図　遺跡位置図（1/2,500）……4
第3図　基本堆積柱状図・写真……4
第4図　遺跡全体図（1/300）……5
第5図　調査区別全体図（1/150）……6
第6図　1号住居　平面図（1/60）　炉断面図（1/30）……7
第7図　1住居　断面図（1/60）　出土遺物図……8
第8図　2号住居　平・断面図（1/60）……9
第9図　2号住居　出土遺物図……10
第10図　3号住居　平・断面図（1/60）……10
第11図　4号住居　平・断面図（1/60）　出土遺物図……11
第12図　5号住居　平・断面図（1/60）　出土遺物図……12
第13図　6号住居　平・断面図（1/60）　出土遺物図……13
第14図　7号住居　平・断面図（1/60）……13
第15図　8号住居　平・断面図（1/60）……14
第16図　1号溝　平・断面図……14
第17図　2・3・4号溝　平・断面図（1/60）……15
第18図　5号溝　平・断面図（1/60）　出土遺物図……16
第19図　6～9号溝　平・断面図（1/60）……17
第20図　1～5号土坑　平・断面図（1/40）……18
第21図　6～12号土坑　1～15号ピット　平・断面図（1/40）……19
第22図　16～22号ピット　平・断面図（1/40）　1号土坑出土遺物図……20
第23図　As-B下水田畦畔　平・断面図（1/60）……20

第1表　1号住居遺物観察表……8
第2表　2号住居遺物観察表……10
第3表　4号住居遺物観察表……11
第4表　5号住居遺物観察表……12
第5表　6号住居遺物観察表……13
第6表　5号溝遺物観察表……17
第7表　土坑・ピット計測表……18
第8表　1号土坑遺物観察表……20

写真図版

PL1:空撮　PL2:調査写真　PL3:調査写真　PL4:調査写真　PL5:調査写真　PL6:調査写真
PL7:調査写真　PL8:調査写真　PL9:調査写真　PL10:出土遺物写真

Ⅰ　調査に至る経緯

平成２５年１月、高崎市農業協同組合（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に事務所建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地は埋蔵文化財包蔵地であり、周辺地区が中川北部ほ場整備事業に伴い調査された正観寺遺跡群の範囲でもあるため、試掘調査による確認を実施し工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

問年２月２８日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年３月１８日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳～平安時代の遺構・遺物を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、開発予定地の内外工部分について記録保存の発掘調査を行うことで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、高澤考古学研究所に委託して実施することとなり、平成２５年５月２４日付けで高崎市教育長・事業者・高澤考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成２５年５月２７日付けで事業者と高澤考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。

Ⅱ　調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約 64cm下であることが確認されている為、重機にて表土を除去し、ジョレンを用い人力にて遺構確認作業を行った。遺構確認作業の結果、試掘通り、竪穴住居跡及び溝等を検出した。

検出された遺構は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、掘り下げ作業を行った。検出された遺物は必要に応じて座標を与え、平面図及びエレベーション図を作成し、写真記録を所得しながら調査を行った。写真は 35mm小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの２種類のフィルムを使用し、1010 万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。平面測量は光波測量機を使用し作成した。遺構の調査が終了後、ラジコンヘリコプターを使用し空中撮影を実施し、基本堆積を確認する為に深掘り調査を行った。すべての調査が終了した後、平成 25 年７月５日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け現地調査を終了した。

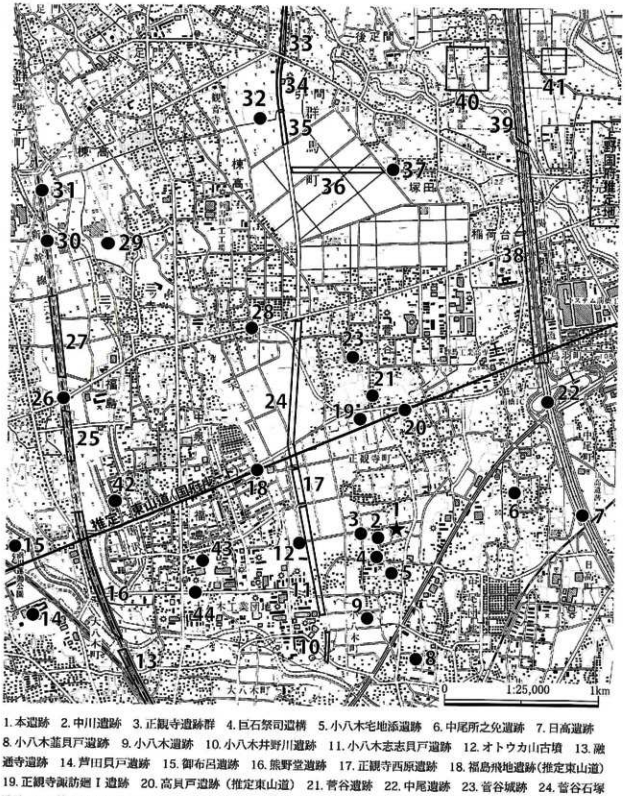
６月３日　現場調査開始準備
６月４日　現場調査開始　重機による表土除去作業
６月５日　西側及び南側調査区の遺構確認作業
６月６日　西側調査区 As-B 除去作業
６月７日　東側及び北側調査区の遺構確認作業
６月 14 日　各遺構掘り下げ作業開始
６月 18 日　各遺構平面図作成作業
６月 24 日　各住居掘り方調査開始
７月１日　各遺構掘り下げ作業終了　遺構清掃作業及び空撮準備
７月２日　ラジコンヘリコプターによる空撮　各遺構平面測量
７月４日　深掘り作業
７月５日　高崎市教育委員会による発掘作業完了確認
７月８日　重機による埋め戻し作業及び現場撤収作業

Ⅲ　遺跡の地理的環境と周辺遺跡

群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉾山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。正観寺八木境遺跡は、高崎市市街地の北方向、関越自動車道前橋インターチェンジから南西に約 1.3km の地点に位置し、遺跡地の標高は 105 m である。本遺跡付近は榛名山南東に形成された相馬ヶ原扇状地の扇端部にあり、北西から南東に向い緩傾斜している。榛名山麓に源をもつ染谷川、天王川、唐沢川等の小河川が開析谷を形成し、自然堤防と後背湿地をつくりだし、台地と低地が入り組む複雑な地形を形成してる。本遺跡は天王川の左岸にあり、微高地にて集落を検出し低地にて水田跡が検出されている。

周辺遺跡としては縄文時代前期から生活の痕跡が確認されている。前期から中期の遺跡として西浦北遺跡（42）、上野国分僧寺・尼寺中間遺跡（39）、大八木箱田池遺跡（43）があり、後期の遺跡として敷石住居が検出された小八木志志貝戸遺跡（11）がある。弥生時代中期後半になると熊野堂遺跡（16）、雨壷遺跡（44）等で集落が徐々に増加し、後期後半においては小規模な集落が多く存在するようになる。現在、史跡整備がすすむ日高遺跡（7）、西三社免遺跡（35）、熊野堂遺跡（16）、正観寺遺跡群（3）、小八木志志貝戸遺跡（11）等があげられる。古墳時代においては前代以上に集落の増加が認められ、小八木遺跡（9）、井出村東遺跡（25）、三ツ寺Ⅱ遺跡（27）、三ツ寺Ⅲ遺跡（30）、本遺跡に隣接して存在する正観寺遺跡群（3）等では多くの住居跡が検出されている。また、三ツ寺Ⅰ遺跡（26）においては当該期の豪族居館が検出されている。奈良・平安時代にかけても遺跡は広域に分布し、熊野堂遺跡（16）では 200 軒以上、融通寺遺跡（13）においては 300 軒近い竪穴住居跡が検出されている。また本遺跡の北約 700 m には推定東山道が東西に走行し、国府推定地が北東約 2.8km に存在している。生産遺構としては御布呂遺跡（15）、芦田貝戸遺跡（14）、熊野堂遺跡（16）、小八木遺跡（9）、菅谷石塚遺跡（24）等、As-C、Hr-FA 及び Hr-FP の火山噴出物により被災を受け埋没した古墳時代の水田跡が検出され、As-B により被災し埋没した平安時代の水田跡である小八木遺跡（9）・芦田貝戸遺跡（14）・御布呂遺跡（15）・正観寺遺跡群（3）・三ツ寺Ⅱ遺跡（27）も集落に隣接した低地より検出されている。本遺跡は竪穴住居跡 339 軒以上を検出している正観寺遺跡群（3）の範囲内にあり、弥生時代から平安時代までの集落遺構及び生産遺構が非常に多く分布している地域に存在している。

高崎市役所からの遠景



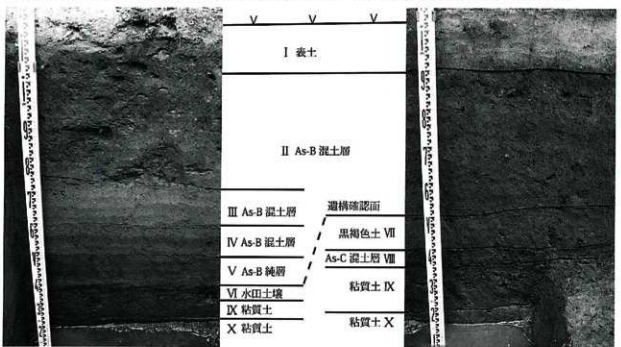
1. 本遺跡　2. 中川遺跡　3. 正観寺遺跡群　4. 巨石祭司遺構　5. 小八木宅地添遺跡　6. 中尾所之免遺跡　7. 日高遺跡
8. 小八木薑貝戸遺跡　9. 小八木遺跡　10. 小八木井野川遺跡　11. 小八木志志貝戸遺跡　12. オトウカ山古墳　13. 瀧
通寺遺跡　14. 芦田貝戸遺跡　15. 御布呂遺跡　16. 熊野堂遺跡　17. 正観寺西原遺跡　18. 福島飛地遺跡（推定東山道）
19. 正観寺諏訪廻Ⅰ遺跡　20. 高貝戸遺跡（推定東山道）　21. 菅谷遺跡　22. 中尾遺跡　23. 菅谷城跡　24. 菅谷石塚
遺跡　25. 井出村東遺跡　26. 三ツ寺Ⅰ遺跡　27. 三ツ寺Ⅱ遺跡　28. 棟高東弥三郎街道遺跡　29. 堤上遺跡　30. 三ツ
寺Ⅲ遺跡　31. 保渡田遺跡　32. 棟高遺跡群　33. 冷水村東遺跡　34. 小池遺跡　35. 西三社免遺跡　36. 棟高辻久保遺
跡　37. 引間六石遺跡　38. 鳥羽遺跡　39. 上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡　40. 上野国分僧寺　41. 上野国分尼寺
42. 西浦北遺跡　43. 大八木籠田池遺跡　44. 雨壺遺跡

第１図　周辺遺跡図　(1/25,000)

第２図　遺跡位置図　(1/2,500)

Ⅳ　基本堆積土層

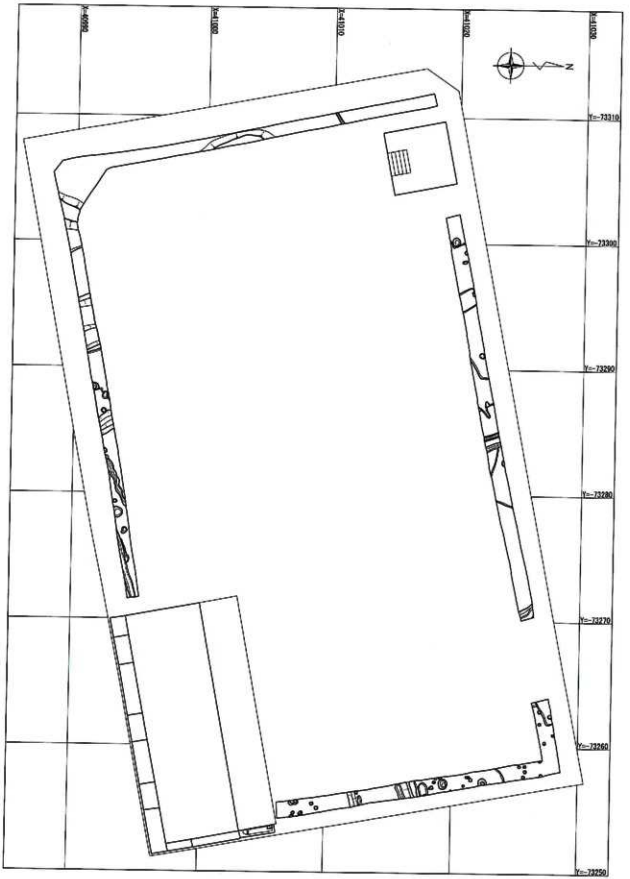
Ⅰ層は表土で約 20cm堆積している。Ⅱ層は As-B 混土層で調査区西側にて約 30cm、東側にて約 40cmの厚さで全域に堆積し、東側ではⅡ層下が遺構確認面である。Ⅲ・Ⅳ層は As-B 粒を多く含むシルト質土、Ⅴ層は As-B 純層で、Ⅵ層は水田土壌と考えられる黒色粘質土である。いずれも西側調査区では、ほぼ全域に堆積しているが他では確認できない。Ⅶ層は白色軽石を含む黒褐色土層で、遺構はこの層から掘り込まれている。Ⅷ層は As-C 粒と考えられる白色軽石を含む黒色土で、調査区北側のみで確認されている。Ⅸ層は灰褐色な粘質土でⅩ層は硬くしまる褐色粘質土である。共に基盤層と考えられ、調査区南側では小礫を含んでいる。



西側調査区（低地部）　　北側調査区（微高地部）

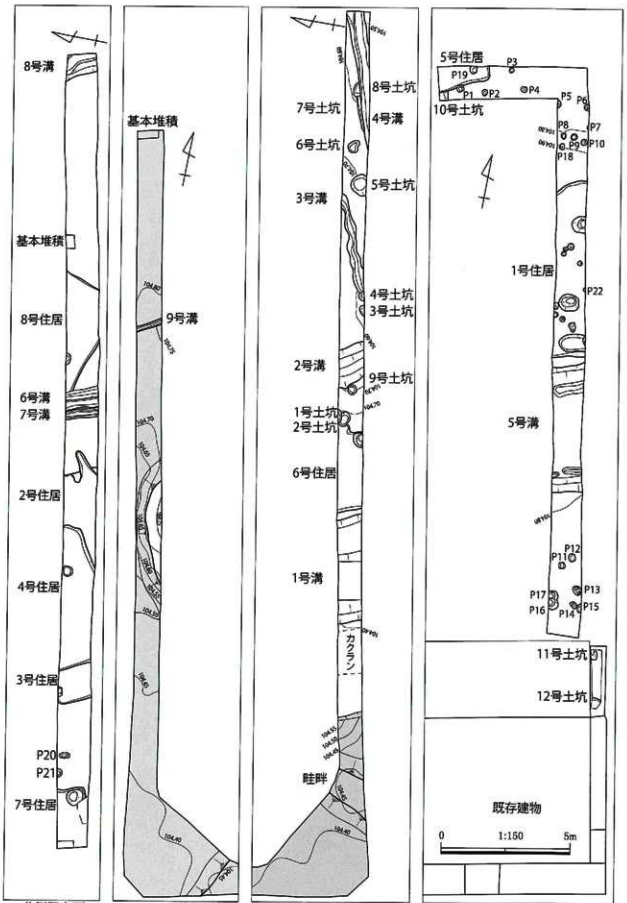
Ⅰ層 暗褐色土　表土　Ⅱ層 黒褐色土　粘性弱・しまりややあり　As-B 粒を含み、炭化物粒・地山褐色土小ブロックを少量含む。　Ⅲ層 青灰色土　粘性ややあり・しまりあり　As-B 粒を含みややシルト質土。　Ⅳ層 暗褐色土　粘性ややあり・しまりあり　As-B 粒を含むシルト質土。　Ⅴ層 灰色土　粘性なし・しまり弱　As-B 純層。　Ⅵ層 黒色土　粘性強・しまりあり　白色軽石を少量含む黒色粘質土。　Ⅶ層 黒褐色土　粘性ややあり・しまりあり　白色軽石を少量含み遺物を包含する。（上面が遺構確認面）　Ⅷ層 黒色土　粘性あり・しまりあり　白色軽石（As-C 粒か）をやや多く含む。　Ⅸ層 灰白色土　粘性強・しまりあり　灰色粘質土。Ⅹ層 暗褐色土　粘性強・しまりあり　暗褐色粘質土　調査時に湧水が認められた。

第３図　基本堆積柱状図・写真



第４図　遺跡全体図（1/300）

0　1:300　10m



第５図　調査区別全体図（1/150）　トーン部は As-B 下黒色粘質土範囲（水田面）

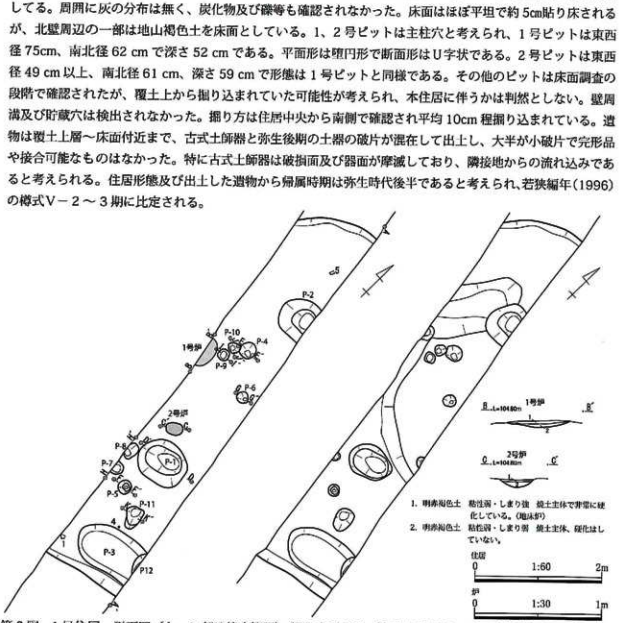
V　調査の成果

発掘調査の結果、竪穴住居跡8軒、溝9条、土坑12基、ピット22基を検出し、西側調査区にてB軽石に覆服された水田跡を検出した。調査区は東西55 m南北32 mの口の字状で、現況は北から南に向かい緩傾斜しているが概ね平坦である。旧地形においては現況とは若干異なり、調査区西端から低地になる様相をみせ、東側が微高地となり、東西の基盤層は異なる堆積をしている（第3図参照）。住居跡はこの微高地に分布し、水田域は西側の低地に広がっている。

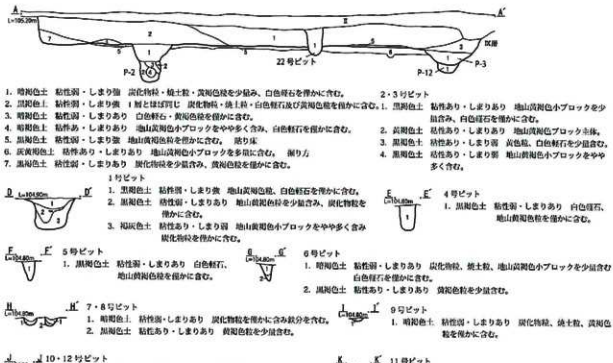
竪穴住居跡

1号住居

調査区東側で検出された。22号ピットと重複関係にあり本遺構の方が古い。規模の詳細はであるが、長軸は約6.5mであると推測される。確認面からの深さは44cmで、平面形態は隅丸長方形と考えられる。床面にて地床炉が2基検出され、1号炉は東西径18cm以上、南北径48 cmで深さ6 cmを測り、2号炉は東西径25cm、南北径15cmで深さ7 cmである。両炉とも焼土化が顕著で、床面から約3cmまでは非常に硬く硬化してる。周囲に灰の分布は無く、炭化物及び礫等も確認されなかった。床面はほぼ平坦で約5cm貼り床されるが、北壁周辺の一部は地山褐色土を床面としている。1、2号ピットは主柱穴と考えられ、1号ピットは東西径75cm、南北径62 cmで深さ52 cmである。平面形は楕円形で断面形はU字状である。2号ピットは東西径49 cm以上、南北径61 cm、深さ59 cmで形態は1号ピットと同様である。その他のピットは床面調査の段階で確認されたが、覆土上から掘り込まれていた可能性が考えられ、本住居に伴うかは判然としない。壁周溝及び貯蔵穴は検出されなかった。掘り方は住居中央から南側で確認され平均10cm程掘り込まれている。遺物は覆土上層～床面付近まで、古式土師器と弥生後期の土器の破片が混在して出土し、大半が小破片で完形品や接合可能なものはなかった。特に古式土師器は破損面及び器面が摩滅しており、隣接地からの流れ込みであると考えられる。住居形態及び出土した遺物から帰属時期は弥生時代後半であると考えられ、若狭編年（1996）の樽式V－2～3期に比定される。



第6図　1号住居　平面図（トーン部は焼土範囲）・掘り方平面図・断面図（1/60）　1・2号炉断面図　（1/30）



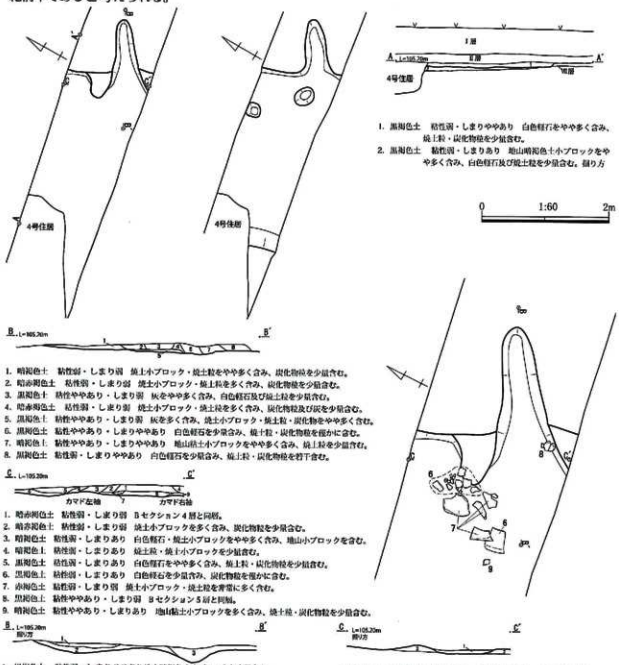
第７図　１号住居　断面図（1/60）　出土遺物図

第１表　１号住居遺物観察表（単位cm）

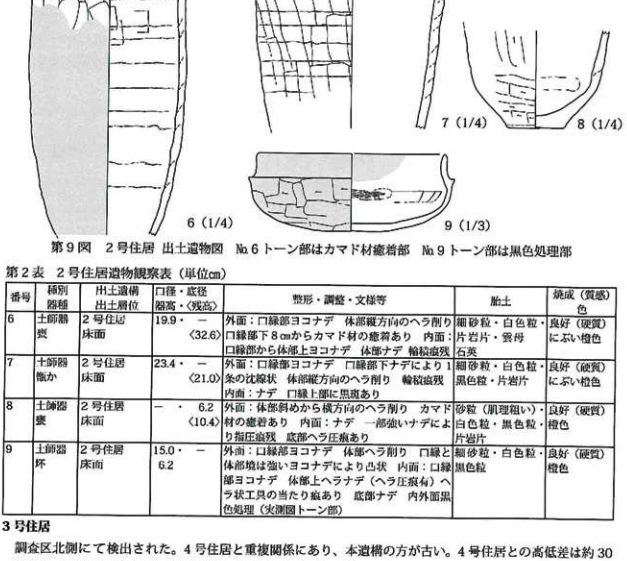
番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
1	弥生土器 台付甕	1 号住居 覆土一括	12.4・　— 〈7.0〉	外面：口唇部から口縁部櫛描き波状文　頸部 11 歯の等間隔腹状文　体部上櫛描き波状文　施文具は同一と考えられる　口唇部及び体部最大径部に円形付文あり（多孔）　内面：口縁部斜め～横方向のミガキ	細砂粒・白色粒	良好（硬質） 灰色
2	弥生土器 甕	1 号住居 覆土一括	12.6・　— 〈4.3〉	外面：７歯以上の櫛にて口唇部櫛描き波状文　頸部簾状文　内面：口縁部斜め方向のミガキ	細砂粒・白色粒 雲母	良好 （硬質） にぶい橙色
3	弥生土器 壺	1 号住居 覆土一括	16.0・　— 〈4.1〉	外面：全面赤彩　頸部簾状文　内面：全面赤彩 内外面とも赤彩の剥離が著しく依存悪い	細砂粒・黒色粒	良好（硬質） 暗赤褐色
4	弥生土器 高坏か	1 号住居 覆土 床付近	—・　— 〈3.6〉	外面：全面赤彩　内面：全面赤彩　内外面とも赤彩の剥離が著しく依存悪い	細砂粒・黒色粒	良好（やや軟質） 暗赤褐色
5	古式土師器	1 号住居 覆土 床付近	—・　— 〈3.1〉	外面：縦方向のハケナデ　内面：ナデ　全体的に摩滅している	細砂粒・黒色粒	やや不良 （やや軟質） にぶい黄橙色

2号住居

調査区北側にて検出された。4号住居と重複関係にあり、本遺構の方が古い。4号住居との比高差は36cmである。住居の規模は不明であるが、東側にカマドが構築されている。貯蔵穴及び柱穴は確認されなかった。カマドは煙道部が85cmと長く、燃焼部幅は35cmで焚口から煙道部手前にかけて灰の堆積が確認された。袖には地山褐色粘土が使用され、石材等の構築材は検出されなかった。また、両袖基底部は基本土層Ⅷ層が掘り残されて造り出されている。遺物はカマドから崩落した状態でNo.6、7が確認された（PL3参照）。掘り方は不整形で浅い。出土した遺物から帰属時期は7世紀前半であると考えられる。



第8図　2号住居　平面図・掘り方平面図・断面図（1/60）　カマド遺物出土平面図・断面図（1/30）



第９図　２号住居 出土遺物図　№６トーン部はカマド材癒着部　№９トーン部は黒色処理部

第２表　２号住居遺物観察表（単位cm）

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
6	土師器 甕	２号住居 床面	19.9・　－ 〈32.6〉	外面：口縁部ヨコナデ　体部縦方向のヘラ削り 口縁部下８cmからカマド材の癒着あり　内面： 口縁部から体部上ヨコナデ　体部ナデ　輪積痕残	細砂粒・白色粒・ 片岩片・雲母	良好（硬質） にぶい橙色
7	土師器 甕か	２号住居 床面	23.4・　－ 〈21.0〉	外面：口縁部ヨコナデ　口縁部下ナデにより１ 条の沈線状　体部縦方向のヘラ削り　輪積痕残 内面：ナデ　口縁上部に黒斑あり	細砂粒・白色粒・ 黒色粒・片岩片	良好（硬質） にぶい橙色
8	土師器 甕	２号住居 床面	－　・　6.2 〈10.4〉	外面：体部斜めから横方向のヘラ削り　カマド 材の癒着あり　内面：ナデ　一部強いナデによ り指圧痕残　底部ヘラ圧痕あり	砂粒（肌理粗い）・ 白色粒・黒色粒・ 片岩片	良好（硬質） 橙色
9	土師器 坏	２号住居 床面	15.0・　－ 6.2	外面：口縁部ヨコナデ　体部ヘラ削り　口縁と 体部境は強いヨコナデにより凸状　内面：口縁 部ヨコナデ　体部上ヘラナデ（ヘラ圧痕有）ヘ ラ状工具の当たり痕あり　底部ナデ　内外面黒 色処理（実測図トーン部）	細砂粒・白色粒・ 黒色粒	良好（硬質） 橙色

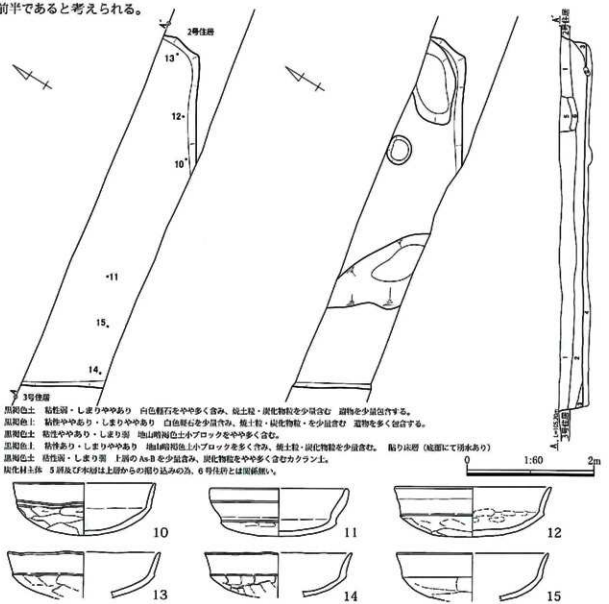
３号住居

調査区北側にて検出された。４号住居と重複関係にあり、本遺構の方が古い。４号住居との高低差は約30cmである。貼り床はされず、地山褐色土（Ⅷ層）を床面とし若干硬化している。カマドは検出されなかった。住居南西隅にピットを１基確認したが、他には検出されなかった。遺物は覆土中より土師器坏の破片が少量出土している。規模や形態が不明で出土遺も少ない為詳細は不明であるが、出土した遺物及び重複関係から帰属時期は７世紀前半であると考えられる。

第10図　３号住居　平面図・断面図（1/60）

4 号住居

調査区北側で検出された。東西 5.2 m で確認面からの深さは 50cm である。床面は、地山褐色土と黒色土の混土で 3 ～ 8cm 貼り床され平坦に整えられている。2 号住居及び 3 号住居と重複関係にあり、本遺構が一番新しい。カマドは検出されず、焼土及び灰の分布も確認されなかった。遺物は覆土中から土師器の坏片が多く出土し、個体数では 10 個以上あると考えられる。№ 10、12 は床面からの出土である。掘り方は浅く、北西部が若干深く掘られる傾向にある。掘り方調査時には湧水が確認された。帰属時期は出土した遺物から 7 世紀前半であると考えられる。



第 11 図　4 号住居　平面図・掘り方平面図・断面図（1/60）　出土遺物図（1/3）

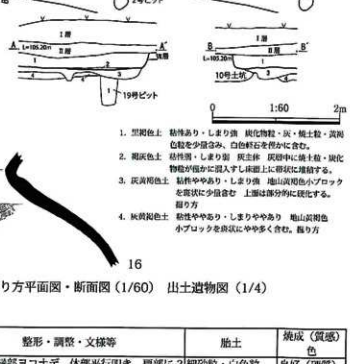
第 3 表　4 号住居遺物観察表（単位cm）

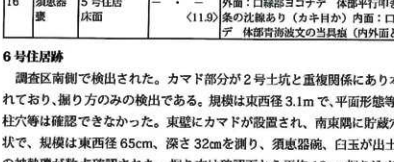
番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
10	土師器 坏	4 号住居 床面	10.8・ － 4.2	外面：口縁部ヨコナデ　体部ヘラ削り　口縁部下に 1 条の沈線あり（2 重公口縁）内面：口縁部から体部上ヨコナデ　底部ナデ	極細砂粒・白色粒	やや不良 （軟質） 橙色
11	土師器 坏	4 号住居 覆土 下層	11.0・ － 3.8	外面：口縁部ヨコナデ　1 条の沈線あり　体部ヘラ削り　口縁と体部境沈線状　内面：口縁から体部ヨコナデ　底部ナデ	細砂粒・白色粒	やや不良 （軟質） 橙色

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
12	土師器 坏	4号住居 床面	12.4・ － 4.0	外面：口縁部ヨコナデ（2段口縁気味） 体部ヘラ削り 内面：口縁部から体部ヨコナデと体部境指頭圧痕あり 底部ナデ	極砂粒・白色粒	やや不良 （軟質） 橙色
13	土師器 坏	4号住居 覆土	11.6・ － 3.6	外面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 歪みあり 内面：口縁部～体部ヨコナデ 底部ナデ	細砂粒・白色粒・石英	良好 （硬質） 橙色
14	土師器 坏	4号住居 覆土	11.4・ － 3.5	外面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面：口縁部から体部上ヨコナデ	細砂粒・白色粒	やや不良 （軟質） 橙色
15	土師器 坏	4号住居 覆土	12.0・ － 3.8	外面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面：口縁部から体部上ヨコナデ	極細砂粒・白色粒	やや不良 （軟質） 橙色

5号住居

調査区東側で検出された。東西2.2m以上、南北1.0m以上で確認面からの深さは22cmである。10号土坑と重複関係にあり本遺構の方が新しい。カマドは検出されなかったが、床面上の灰及び焼土粒の散り方から東側に構築されていると推測される。床面は平坦で、貼り床はなく壁際を除き硬化している。掘り方は平均18cm程掘り込まれ、多少の起伏はあるがほぼ平坦である。出土した遺物から帰属時期は7世紀代と考えられる。





16

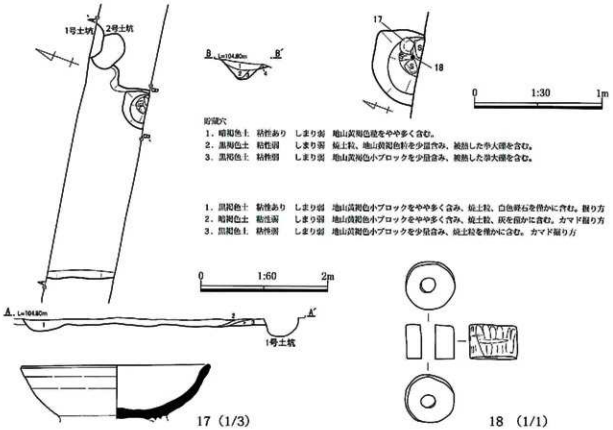
第12図 5号住居 平面図・掘り方平面図・断面図（1/60） 出土遺物図（1/4）

第4表 5号住居遺物観察表（単位cm）

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
16	須恵器 甕	5号住居 床面	－ ・ － 〈11.9〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部平行叩き 頸部に2条の沈線あり（カキ目か）内面：口縁部ヨコナデ 体部青海波文の当具痕（内外面とも不明瞭）	細砂粒・白色粒	良好（硬質） 白灰色

6号住居跡

調査区南側で検出された。カマド部分が2号土坑と重複関係にあり本遺構の方が古い。上面が攪乱で削平されており、掘り方のみの検出である。規模は東西径3.1mで、平面形態等の詳細は不明である。床面及び壁周溝、柱穴等は確認できなかった。東壁にカマドが設置され、南東隅に貯蔵穴が検出された。貯蔵穴の断面形はV字状で、規模は東西径65cm、深さ32cmを測り、須恵器碗、白玉が出土し、カマドの構築材と考えられる挙大の被熱礫が数点確認された。掘り方は確認面から平均10cm掘り込まれ比較的平坦で、西側は1段深く掘り込まれてる。出土した遺物から帰属時期は9世紀代であると考えられる。



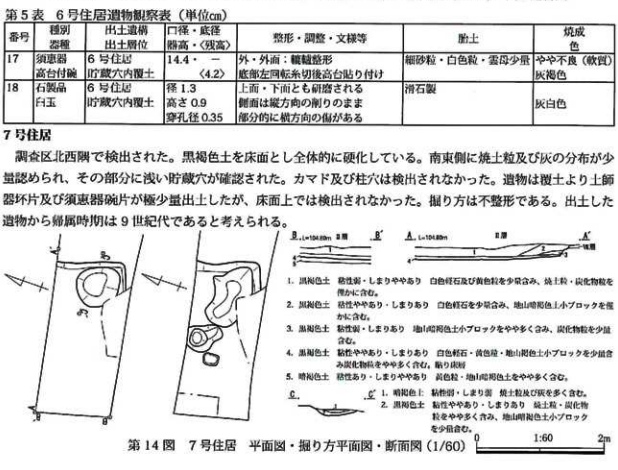
第13図 6号住居 平面図・断面図(1/60) 貯蔵穴遺物出土平面図(1/30) 出土遺物図

第5表 6号住居遺物観察表(単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成 色
17	須恵器 高台付椀	6 号住居 貯蔵穴内覆土	14.4・ — 〈4.2〉	外・外面：轆轤整形 底部左回転糸切後高台貼り付け	細砂粒・白色粒・雲母少量	やや不良（軟質） 灰褐色
18	石製品 白玉	6 号住居 貯蔵穴内覆土	径 1.3 高さ 0.9 穿孔径 0.35	上面・下面とも研磨される 側面は縦方向の削りのまま 部分的に横方向の傷がある	滑石製	灰白色

7号住居

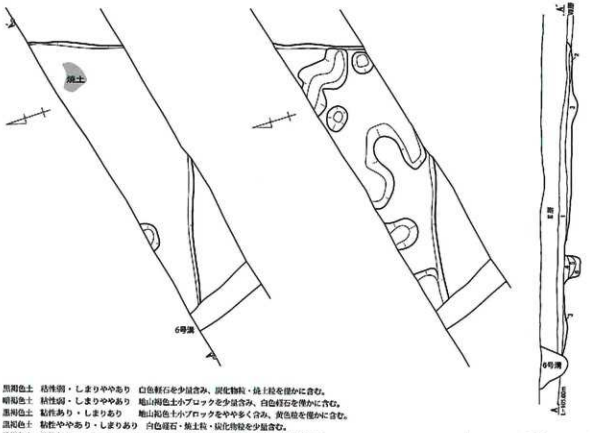
調査区北西隅で検出された。黒褐色土を床面とし全体的に硬化している。南東側に焼土粒及び灰の分布が少量認められ、その部分に浅い貯蔵穴が確認された。カマド及び柱穴は検出されなかった。遺物は覆土より土師器坏片及び須恵器碗片が極少量出土したが、床面上では検出されなかった。掘り方は不整形である。出土した遺物から帰属時期は9世紀代であると考えられる。



第14図 7号住居 平面図・掘り方平面図・断面図(1/60)

8号住居

調査区北側で検出された。6号溝と重複関係にあり、本遺構の方が古い。貼り床はなく、地山黒褐色土層（Ⅶ層）を掘り込み床とし部分的に若干硬化している。北東側の床面に炭化物粒及び焼土粒が少量散っている。貯蔵穴は検出されなかった。掘り方は不整形で、住居東側が若干深く掘られている。遺物は検出されず、帰属時期については不明である。



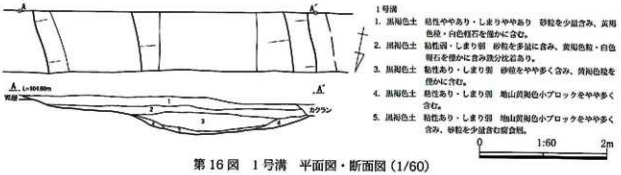
1. 黒褐色土　粘性弱・しまりややあり　白色軽石を少量含み、炭化物粒・焼土粒を僅かに含む。
2. 暗褐色土　粘性弱・しまりややあり　地山褐色土小ブロックを少量含み、白色軽石を僅かに含む。
3. 黒褐色土　粘性あり・しまりあり　地山褐色土小ブロックをやや多く含み、黄色粒を僅かに含む。
4. 黒褐色土　粘性ややあり・しまりあり　白色軽石・焼土粒・炭化物粒を少量含む。
5. 暗褐色土　粘性あり・しまりあり　地山褐色土小ブロックを少量含み、焼土粒を僅かに含む。
6. 黒褐色土　粘性あり・しまりあり　地山黄色土小ブロックをやや多く含み、焼土粒を少量含む。

第15図　8号住居　平面図・掘り方平面図・断面図（1/60）

溝

1号溝

調査区南側で検出された。主軸方向はN－164°－Eで、規模は上幅430cm、下幅150cm、深さ62cmである。微高地縁辺部に位置し西隣は低地部になる。約5m東に位置する2号溝とはほぼ並走し、南に向い緩傾斜している。断面形態は皿状で東側には一段高い平坦面がある。覆土全般で砂質土の堆積が認められ、激しい流水の痕跡が確認された。底面から約5～10cmは腐植層が堆積し帯水の痕跡が認められる。調査時は底面から湧水が認められた。遺物は覆土中から土師器及び須恵器の小破片が少量検出されている。

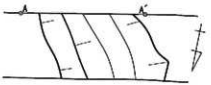


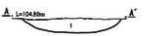
1号溝
1. 黒褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　砂粒を少量含み、黄褐色粒・白色軽石を僅かに含む。
2. 黒褐色土　粘性弱・しまり弱　砂粒を多量に含み、黄褐色粒・白色軽石を僅かに含み焼分化石あり。
3. 黒褐色土　粘性あり・しまり弱　砂粒をやや多く含み、黄褐色粒を僅かに含む。
4. 黒褐色土　粘性あり・しまり弱　地山黄褐色小ブロックをややを多く含む。
5. 黒褐色土　粘性あり・しまり弱　地山黄褐色小ブロックをややを多く含み、砂粒を少量含む腐植層。

第16図　1号溝　平面図・断面図（1/60）

2号溝

調査区南側で検出された。主軸方向はN－136°－Eで、規模は上幅158cm、下幅65cm、深さ22cmである。約5m西に位置する1号溝とはほぼ並走し、南に向かい僅かに緩傾斜している。断面形態はU字状で、覆土には砂質の堆積は認められず流水があった痕跡は確認できない。遺物は覆土中より土師器片が少量検出されている。

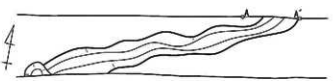




2号溝
1. 黒褐色土　粘性弱・しまり弱　地山黄褐色小ブロックを僅かに含む。

3号溝

調査区南側で検出された。主軸方向はN－113°－Wで、規模は上幅42cm、下幅18cm、深さ14cmである。4号土坑と重複関係にあり、本遺構の方が古い。南西に向い緩傾斜し、細かな蛇行を繰り返しながら直線的に延びる。覆土には砂質の堆積は認められず流水があった痕跡は確認できない。遺物は検出されなかった。



3号溝
1. 暗褐色土　粘性弱・しまり弱　黄褐色粒を少量含む。

4号溝

調査区南側で検出された。主軸方向はN－72°－Eで、規模は上幅50cm、下幅28cm、深さ42cmである。7、8号土坑と重複関係にあり、7号土坑より新しく8号土坑より古い。断面形態はU字状で、覆土には砂質の堆積は認められず流水があった痕跡は確認できない。また、傾斜はほとんど認められない。底面には不整列で浅いが、鋤先痕が確認された。遺物は覆土中より土師器及び須恵器の小片が少量検出されている。

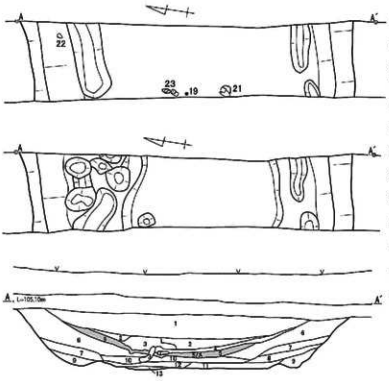
4号溝
1. 黒褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　黄褐色粒を僅かに含む。

0　1:60　2m

第17図　2・3・4号溝　平面図・断面図（1/60）

5号溝

調査区東側で検出された。主軸は東西方向で、規模は上幅515cm、下幅340cm、深さ96cmである。断面形態は逆台形状で、底面直上の11～13層は砂質が含まれ流水の痕跡が認められる。また、10層は黒色粘質土の腐植層で帯水の痕跡が認められ、その直上にHr-FA層（5層）が10cm程のユニットで堆積している。FA堆積後、砂質土を含む堆積（4層）があり、FA降下後も流水があった可能性が指摘される。3層では植生（植物根）の痕跡が確認され、溝の機能を失い埋没（1．2層）したものと推測される。底面の状況は、全体に浅い凹凸あり、両際には下幅約40cm、高さ約10cmの帯状の高まりが認められる。底面調査時には湧水が確認された。遺物は覆土中から少量出土している。帰属時期はFAの堆積及びFA層下から出土したNo.22や溝底面付近（10～12層）から出土したNo.21、23から5世紀後半と考えられる。

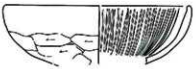


5号溝

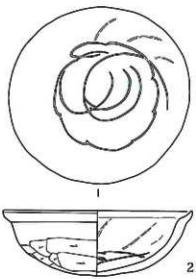
1. 暗褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　白色軽石・黄褐色粒を少量含み遺物を包含する。
2. 黒褐色土　粘性弱・しまりややあり　黄褐色粒（Hr-FA か）・白色軽石を微かに含み遺物を包含する。
3. 黒褐色土　粘性あり・しまり弱　根侵乱
4. 灰黄褐色土　粘性ややあり・しまり弱　黄褐色粒（Hr-FA か）を微量にややを多く含み、砂粒を少量含む。
5. 黄褐色土　粘性弱・しまりあり　Hr-FA が主体でユニットで認められる　部分的に根侵乱を受ける。
6. 黒褐色土　粘性ややあり・しまり弱　白色軽石を少量含み下部は腐食の影響で黒色化している遺物を包含する。
7. 暗褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　黄褐色粒を少量含み、白色軽石を微かに含む　部分的に鉄分を含む。
8. 暗褐色土　粘性ややあり・しまり弱　黄褐色粒をやや多く含み、鉄分を含む。
9. 灰黄褐色土　粘性あり・しまりややあり　地山黄褐色小ブロックをやや多く含み、砂粒を少量含む。
10. 黒色土　粘性強・しまり弱　黄褐色粒・白色軽石を微かに含み遺物を包含する黒色腐植層。
11. 黄褐色土　粘性強・しまり弱　地山黄褐色小ブロックを斑状にやや多く含み遺物を包含する。
12. 褐灰色土　粘性強・しまり弱　地山黄褐色小ブロックをやや多く、砂粒を少量含み、遺物を包含する。
13. 褐灰色土　粘性弱・しまり弱　砂粒をやや多く含み、地山黄褐色小ブロックを少量含む。

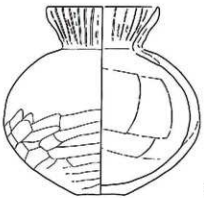
0　1:60　2m

19


20

22


21


23

第18図　5号溝　平面図・断面図〈トーン部は Hr-FA 層〉(1/60)　出土遺物図 (1/3)

第６表　５号溝遺物観察表（単位cm）

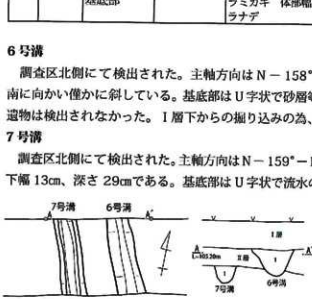
番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
19	土師器 高坏	５号溝 覆土 FA 上層	－　・　－ 〈8.9〉	外面：脚部縦方向のヘラケズ　ハケ状工具による調整痕残　脚部下方ヨコ状の沈線あり　内面：絞り痕あり　下部に横位のヘラ削り	極細砂粒・白色粒・黒色粒	良 （硬質） 橙色
20	土師器 坏	５号溝 覆土 FA 上層	14.6・　－ 〈4.7〉	外面：口縁部ヨコナデ　体部ヘラ削り　内面：口縁部ヨコナデ・体部ナデ後、放射状ヘラミガキ	細砂粒・白色粒・黒色粒	良 （硬質） 橙色
21	土師器 坏	５号溝 FA 下層 基底部	14.4・　－ 5.2	外面：口縁部から体部上ヨコナデ　体部ヘラ削り　内面：摩滅が著しい　斜め方向のヘラミガキ　ヘラ若しくは棒状工具による重円文状の複刻か	細砂粒・白色粒・黒色粒	良好 （硬質） 橙色
22	土師器 坏	５号溝 FA 下層 基底部	14.2・　－ 5.6	外面：口縁部ヨコナデ　体部ヘラ削り　内面：口縁部ヨコナデ・体部ナデ後、放射状ヘラミガキ	細砂粒・白色粒・黒色粒	良好 （硬質） 橙色
23	土師器 短頸壺	５号溝 FA 下層 基底部	8.6・　4.0 14.9	外面：口縁部縦方向のヘラミガキ　体部下横方向のヘラ削り　黒斑あり　内面：口縁部縦方向のヘラミガキ　体部幅広ヘラ状工具による横方向のヘラナデ	細砂粒・白色粒・雲母	良 （やや軟質） 橙色

６号溝

調査区北側にて検出された。主軸方向はＮ－158°－Ｅで、規模は上幅65cm、下幅20cm、深さ40cmで、南に向かい僅かに斜している。基底部はＵ字状で砂層等の堆積は無く、流水があった痕跡は確認できなかった。遺物は検出されなかった。Ⅰ層下からの掘り込みの為、帰属時期は近世以降であると推測される。

７号溝

調査区北側にて検出された。主軸方向はＮ－159°－Ｅで、南に向かい僅かに傾斜している。規模は上幅40cm、下幅13cm、深さ29cmである。基底部はＵ字状で流水の痕跡は無く、遺物は検出されなかった。

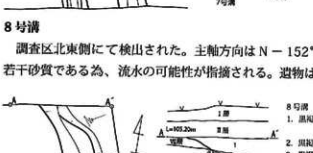


６号溝
1. 暗褐色土　粘性弱・しまりややあり　As-Bをやや多く含み、白色軽石・炭化物粒を少量含み、やや砂質。

７号溝
1. 黒褐色土　粘性ややあり・しまりあり　白色軽石を少量含み、炭化物粒を僅かに含む。

８号溝

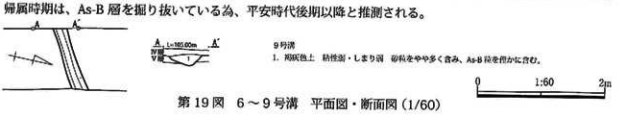
調査区北東側にて検出された。主軸方向はＮ－152°－Ｅで、南に向かい僅かに傾斜している。覆土下層が若干砂質である為、流水の可能性が指摘される。遺物は覆土中より土師器坏片が少量検出されている。



８号溝
1. 黒褐色土　粘性弱・しまりややあり　白色軽石及び炭化物粒を少量含み、径３～５mm大の円礫を僅かに含み、全体的にややが砂質。
2. 黒褐色土　粘性ややあり・しまりあり　地山褐色土小ブロックを少量含み、やや砂質。
3. 黒褐色土　粘性弱・しまりややあり　白色軽石及び地山褐色土小ブロックを少量含み、やや砂質。
4. 暗褐色土　粘性ややあり・しまりややあり　地山褐色土小ブロックをやや多く含み、径３～５mmの円礫を僅かに含む。やや砂質シルト上

９号溝

調査区西側で検出された。主軸方向はＮ－121°－Ｗで、南西に向かい緩傾斜している。規模は上幅50cm、下幅８cm、深さ19cmである。断面形態はＵ字状で、覆土は砂質の堆積があり流水があった痕跡が認められる。帰属時期は、As-B層を掘り抜いている為、平安時代後期以降と推測される。



９号溝
1. 暗褐色土　粘性弱・しまり弱　砂粒をやや多く含み、As-B粒を僅かに含む。

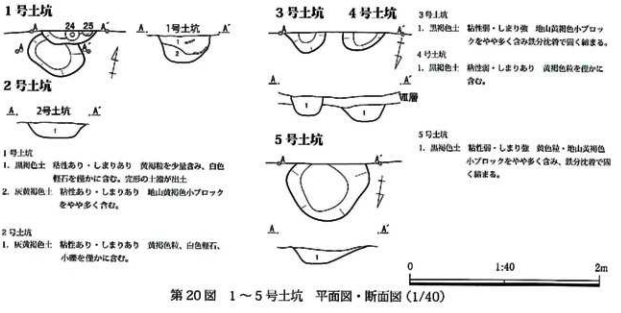
第19図　６～９号溝　平面図・断面図（1/60）

土坑及びピット

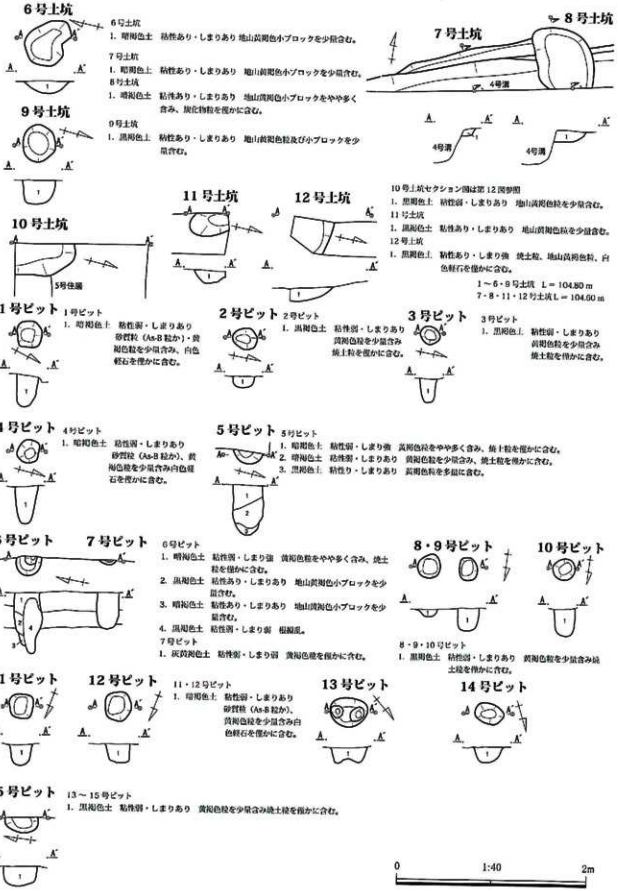
発掘調査時に検出された土坑は 12 基でピットは 22 基である。いずれも規則性及び方向性等は認められず、散漫的は分布をしている。それぞれの帰属時期に関しても重複及び遺物が伴うものについては推測できるが、ほとんどのものは不明である。

第 7 表　土坑・ピット計測表（単位cm）

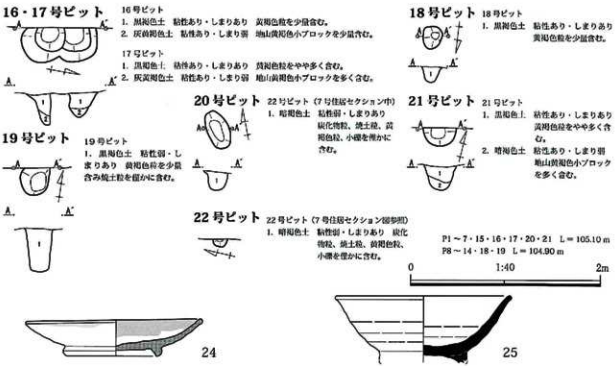
土坑 No.	平面形態	断面形態	重複・新	重複・旧	長軸	短軸	深さ	時期	備考
1	不整円形	U字状		2 号土坑	54	—	28	9 世紀後半	覆土中より No. 24・25 出土
2	楕円形	逆台形	1 号土坑	6 号住居	60	40	16	9 世紀代	遺物なし
3	楕円形か	逆台形			45	—	16		遺物なし
4	楕円形か	U字状			34	—	20		遺物なし
5	不整円形	逆台形			84	74	17		遺物なし
6	不整円形	逆台形			56	43	12		遺物なし
7	楕円形か	皿状か	8 号土坑 4 号溝		144	—	8		遺物なし
8	楕円形か	逆台形	4 号土坑	7 号土坑	56	—	12		遺物なし
9	楕円形	U字状			34	25	26		遺物なし
10	楕円形	逆台形	5 号住居		60	32	44	7 世紀代か	遺物なし
11	楕円形か	皿状			58	—	45		遺物なし
12	楕円形か	皿状			33	—	16		遺物なし
ピット No.	平面形態	断面形態	重複・新	重複・旧	長軸	短軸	深さ	時期	備考
1	隅丸方形	U字状			28	26	35		遺物なし
2	楕円形	皿状			25	20	12		遺物なし
3	円形	U字状			22	20	25		遺物なし
4	隅丸方形	U字状			22	22	36		遺物なし
5	円形か	U字状			30	—	55		遺物なし
6	円形か	U字状			26	20	65		遺物なし
7	円形か	U字状			13	—	40		遺物なし
8	楕円形	皿状			25	20	8		遺物なし
9	円形	U字状			26	25	25		遺物なし
10	円形	U字状			25	24	28		遺物なし
11	隅丸方形	U字状			26	26	22		遺物なし
12	隅丸方形	逆台形			30	28	20		遺物なし
13	楕円形	2 段状			40	30	16		遺物なし
14	楕円形	U字状			30	20	14		遺物なし
15	楕円形か	逆台形			37	—	20		遺物なし
16	円形	U字状			40	—	35		遺物なし
17	円形	U字状			40	—	35		遺物なし
18	楕円形	U字状			24	22	17		遺物なし
19	楕円形か	逆台形	5 号住居		30	—	44	古墳時代か	遺物なし
20	楕円形	U字状			36	20	19		遺物なし
21	楕円形	U字状			38	—	26		遺物なし
22	円形か	U字状		1 号住居	16	—	44	古墳時代か	遺物なし



第 20 図　1～5 号土坑　平面図・断面図 (1/40)



第21図　6～12号土坑　1～15号ピット　平・断面図（1/40）



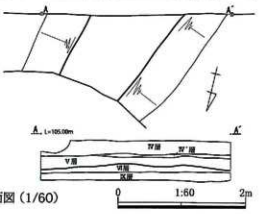
第22図　16～22号ピット　平・断面図（1/40）　1号土坑出土遺物図（1/3）トーン部は釉薬

第8表　1号土坑遺物観察表（単位cm）

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
24	灰釉陶器 壺	1号土坑 覆土	13.5・ 6.6 2.9	外面：轆轤ナデ　口唇部に少量の釉薬がかかる 内面：轆轤ナデ　ハケにて施釉	極細砂粒・黒色粒	良好（硬質） 白灰色
25	須恵器 高台付椀	1号土坑 底面	14.0・ － 〈5.5〉	内・外面轆轤ナデ　底部回転糸切後高台貼り付け	細砂粒・白色粒・ 黒色礫	やや不良（軟質）灰色

水田跡

調査区西側にて検出された（第5図トーン部）。この部分は低地となる為、As-Bの純層が約12cm堆積しており、水田面は良好な状態で検出された。南西部にて南北方向に主軸をもつ下幅2.4mの畦畔と考えられる起伏が1条検出されたが、東西方向の畦畔は確認されなかった。集落が検出された微高地との比高差は約75cmである。礫及び遺物は検出されなかった。部分的に深掘を行った結果、下層ではHr-FA及びAs-Cは検出されなかった。

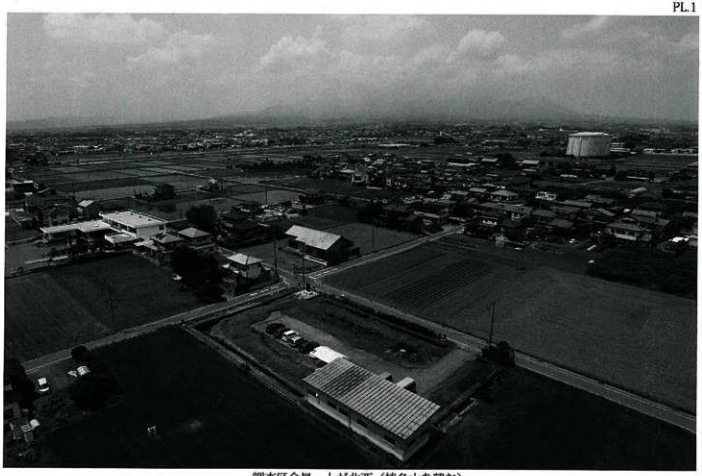


第23図　As-B下畦畔平・断面図（1/60）

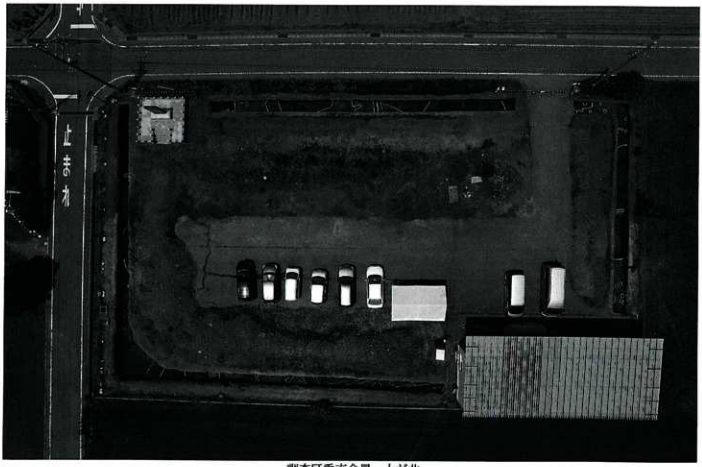
Ⅵ　総括

今回の発掘調査にて計8軒の竪穴住居跡が検出された。特に密集しているのが調査区北側で、本遺跡の北から北東方向に集落の広がりが予想される。北東約70mには正観寺遺跡群A区があり弥生時代から平安時代までの竪穴住居が検出されており、本遺跡と同一集落であると考えられる。また、調査区西側は低湿地となり集落の広がりは想定できないが、As-B下水田跡が検出されている為、生産域が広がっているものと推測される。生産域の範囲は、西約120mに中川遺跡（2）、北西約150mに正観寺遺跡群B区があり、密集した竪穴住居跡が検出されている為、比較的狭く、幅約50m程の小谷の範囲内に限られるものと推測される。本遺跡は正観寺遺跡群に含まれ、周辺には広域かつ密集して集落及び生産域が存在するものと考えられる。

写真図版



調査区全景　上が北西（榛名山を望む）



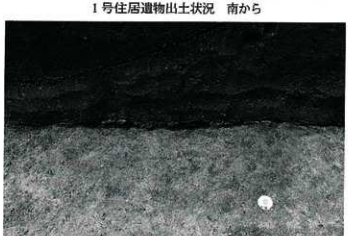
調査区垂直全景　上が北

表土除去状況

遺構確認状況

1号住居遺物出土状況　南から

1号住居遺物№5出土状況



1号住居1号炉セクション　東から

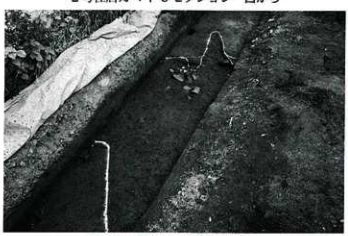
1号住居2号炉セクション　北から

1号住居P1セクション　北から

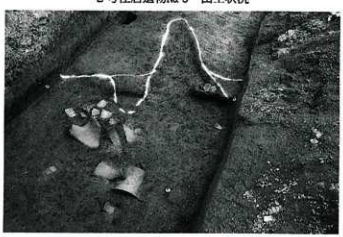
1号住居全景　南西から

2号住居カマドCセクション　西から

2号住居遺物No.9　出土状況



2号住居遺物出土状況　西から



2号住居カマド遺物出土状況　西から

2号住居カマド全景　西から

2号住居全景　西から

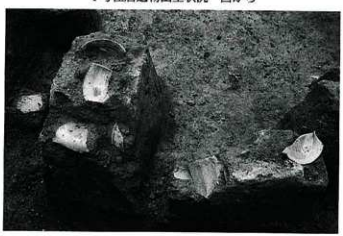
2号住居カマド掘り方全景　西から

2号住居掘り方全景　西から

3 号住居全景　東から

4 号住居遺物出土状況　西から

4 号住居遺物出土状況　東から



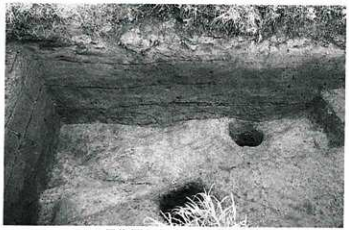
4 号住居遺物出土状況近景　西から

4 号住居全景　西から

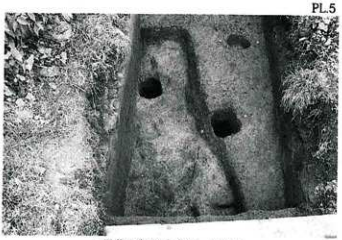
4 号住居掘り方全景　西から

5 号住居遺物出土状況　南東から

5 号住居遺物№ 16 出土状況　南から



5号住居セクション　南から

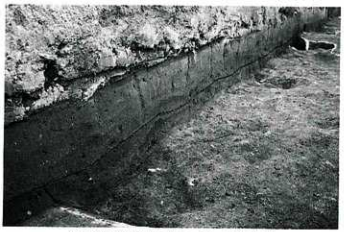


5号住居掘り方全景　西から

6号住居貯蔵穴遺物出土状況　北から

6号住居貯蔵穴遺物No.17・18出土状況近景　北西から

6号住居全景　西から



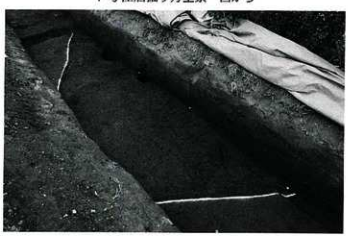
6号住居掘り方セクション　南西から

7号住居セクション　南から

7号住居全景　西から

7号住居掘り方全景　西から

8号住居セクション　南西から



8号住居全景　南東から

8号住居掘り方全景　南東から

1号溝全景　西から

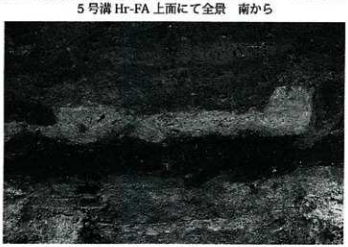
4号溝　西から

5号溝セクション（白色部がHr-FA）　西から

5号溝セクション（白色部がHr-FA）　南から

5 号溝 Hr-FA 上面にて全景　南から

5 号溝全景　南から



5 号溝 Hr-FA 堆積状況アップ　西から

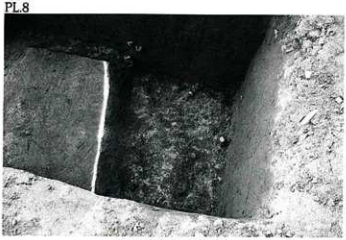
5 号溝遺 Hr-FA 上層物№ 19 出土状況　西から

5 号溝 Hr-FA 下層遺物№ 21 出土状況　南東から

5 号溝 Hr-FA 下層№ 23 出土状況　東から

6・7 号溝全景　南から

8 号溝セクション　南から



8 号溝全景　南から

9 号溝全景　南西から

1 号土坑遺物№ 24 出土状況　南東から

1 号土坑遺物№ 25 出土状況　南から

12 号土坑全景　北東から

1 ～ 4 号ピット全景（手前は 5 号住居）　西から

5 ～ 10・18 ピット全景　北から

11 ～ 17 号ピット全景　南西から

21・22 号ピット全景　南から

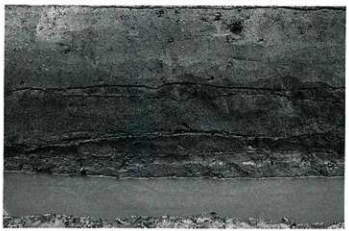
西側調査区　B 下水田面検出状況　南から

西側調査区　B 下水田と微高地境全景　南から

西側調査区　B 下水田畦畔　南西から

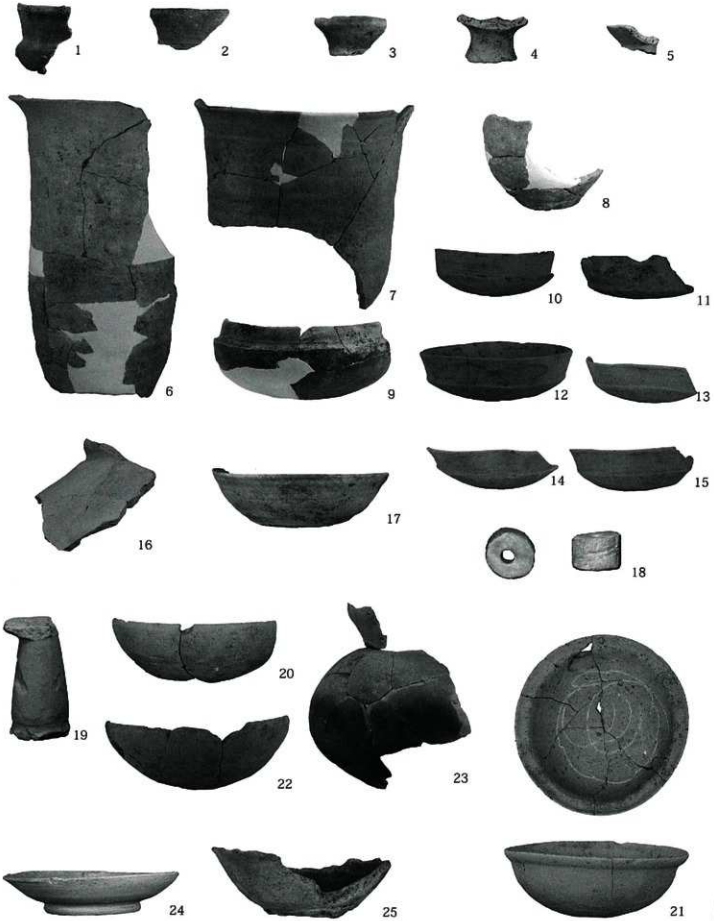
調査区南西隅　B 下水田面断ち割り状況　北東から

調査区南側　B 下水田と微高地境部　北から



B 下水田畦畔断ち割りセクション　北から

南側調査区　既存建物南側確認状況　西から



注：No.21の内面は白線を記入したままの撮影

参考文献

飯塚 恵子・久保 泰博　高野 学・田口 一郎　1979『正観寺遺跡群（Ⅰ）』 高崎市教育委員会

今井 敏彦・横倉・興一・久保 泰博・五十嵐 信・飯塚 恵子・田口 一郎・中村 昌人・安里 俊勝・大沢 利広　1980『正観寺遺跡群（Ⅱ）』 高崎市教育委員会

五十嵐 信・神戸 聖語・久保 泰博・渡辺 義泰・安里 俊勝・小野 和之　1981『正観寺遺跡群（Ⅲ）』 高崎市教育委員会

久保 泰博・清水 幸男　西川 正道・渡辺 義泰　1982『正観寺遺跡群（Ⅳ）』

神谷 佳明・楢崎 修一郎　2003『菅谷石塚遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県史編さん委員会　1990『群馬県史　通史編１原始古代１』群馬県

荊狭　徹　1996『群馬地域「YAY！（やいっ！）」』弥生土器を語る会

高崎市教育委員会　1998『高崎市遺跡分布図』高崎市内遺跡詳細分布調査報告書高崎市教育委員会

高崎市市史編さん委員会　1999『新編 高崎市史 資料編１ 原始古代Ⅰ』高崎市

高崎市市史編さん委員会　2000『新編 高崎市史 資料編２ 原始古代Ⅱ』高崎市

報告書抄録

フリガナ	ショウカンジヤギサカイ　イセキ
書名	正観寺八木境遺跡
副書名	事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 321 集
編著者名	澤田 福宏
編集機関	有限会社 高澤考古学研究所
編集機関住所	〒 370-0005　群馬県高崎市浜尻町 930 番地 6
発行年月日	2014 年 1 月 31 日

所収遺跡名		正観寺八木境遺跡					
所収遺跡所在地		群馬県高崎市正観寺町字八木境 654 番地					
市町村コード	遺跡番号	北　緯	東　経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	565	36° 22′ 0.4″	139° 1′ 0″	20130603	20130708	180㎡	事務所建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
正観寺八木境遺跡	集落	弥生時代～平安時代	竪穴住居跡 溝状遺構 土坑・ピット	弥生土器 土師器 須恵器	Hr-FA により埋没した溝状遺構
	生産	平安時代	As-B 下水田跡		

— 正観寺八木境遺跡 —
高崎市文化財調査報告書第 321 集

平成 26 年 1 月 25 日　印刷
平成 26 年 1 月 31 日　発行

編集・発行　有限会社 高澤考古学研究所
印刷・製本　上武印刷株式会社